

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500492		
法人名	特定非営利活動法人エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム 愛の郷 笠岡 (Aユニット)		
所在地	笠岡市生江浜585-1		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 24 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500492-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500492-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ブランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 4 年 12 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 入所者が住み慣れた場所で安心して暮らせるように、医師との連携を図り、尊厳を大切にしながら介護を提供しています。利用者様の体調の変化に早く気づき、受診が出来る体制をとっています。2. グループホームの特長を生かして、個別対応を行い、その時の状態に合わせ、意欲を生かせるような対応を行っています。新聞折り、洗濯物量みなどの役割を担って頂く援助の外、法人主催の文化祭に向けた作品づくりの支援も行っています。3. 感染症予防対策に努め、毎日実践しています。4. コロナ禍においては毎月のボランティアの先生による生け花教室、音楽会は出来なくなりましたが、地域の感染拡大状況に応じて可能な限り再開し楽しんで頂いております。その他にも、季節行事に合わせた企画やメニューにて季節を感じて頂き楽しんで頂けるよう取り組んでいます。移動図書をご利用されている方もおられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優れている点として上げられるのは、次の2点である。まず、職員が持ち回りで手作りする食事は栄養バランスが良く、季節の行事に合わせて利用者の希望や要望を取り入れるなど、満足度の高い食事を提供しており、利用者にとって食事が楽しいものになっていること。二つ目に、「馴染みの場所を思い出して欲しい」「生活を楽しんでほしい」という思いから、感染予防対策を講じた上で、コロナの状況を見ながら、馴染みの場所(笠岡ベイファームや市民会館、井原の天神峡など)へ積極的に出かけていることがある。工夫点は、家族等に毎月送付している「介護及び看護の状況のお知らせ」について、利用者及び事業所内の様子や状況が各項目ごとに分かりやすく簡潔にまとまっている点が挙げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の理念を各ユニットに掲示し、共有しています。理念・原則に沿ったケアの実践に努めています。昨年10月に事業所理念についてブレインストーミングを行い更新しています。	各ユニットの事務所に理念を掲示し、職員に周知すると共に、朝礼時に復唱することもある。新入社員はオリエンテーションの中で周知している。職員の入替など、事業所内で変化が起きた時、理念を見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、総会や清掃活動等に参加しています。	コロナ禍で活動制限されているが、年2回、管理者が地域の清掃活動に参加し交流している。コロナ禍前は、夏のボランティアや職場体験の受け入れ、幼稚園児の慰問、子供神輿の来訪等があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や町内会等で施設見学や相談を受け付けている事をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催されています。民生委員様、利用者家族様の出席があり、様々に情報・意見交換がされて、サービス向上に役立てられています。本年5月、9月はコロナ禍の為開催中止となりました。	コロナの状況に合わせて開催しており、4月以降中止している。会議で出た意見は、ハザードマップの作成などに活かしている。また、災害時のアドバイスや気づきを貰ったりしている。	集まって開催することが難しい場合でも、書面会議での開催に期待します。また、集まって開催する際、家族への参加呼びかけに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域福祉課や長寿支援課、包括支援センターと連絡を取っており、協力関係を築いています。	地域福祉課へ生活保護の関係で出向いたり、連絡を取ったり、市担当者や包括支援センターに運営推進会議の議事録等を持参した際に話をしたりして、協力関係を築いている。コロナの影響で保健所との関わりも増えた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナでの面会禁止期間以外は日中玄関の施錠はしていません。委員会報告に基づく所内研修等にて、該当する具体的な行為について話し合い、認識を確かめています。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開いている。また、管理者が中心となり、年2回内部研修を行っており、その中で勉強会も行っている。マニュアルを整備し、職員一丸となって拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会報告に基づく所内研修や、入社時の研修などにより虐待防止について学び、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人からの資料等を通じて学ぶ機会があり、現在も笠岡市社会福祉協議会担当者様による成年後見人の支援が行われています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みや契約時等機会ある毎に説明し、理解を図っています。改定時には家族様宛に説明文の送付も行っていきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人からの家族様へのアンケート調査の他、来訪時等、随時意見・要望を伺っており、運営に反映できる体制となっています。	家族は法人のアンケート調査や面会時に、利用者は日々の生活の中から聞き取っている。聞き取った意見等は、買い物外出や体重管理等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティング等にて職員の意見・提案が検討され、業務に反映されています。	毎月のミーティングや日々の申し送り、定期カンファレンスの際に、職員から意見等を聞き取っている。また、気になる職員がいればその都度、話を聞いている。出た意見等は、行事内容の計画や利用者が日中活動する環境整備等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与と年度末決算賞与、毎月処遇改善助成金交付、永年勤続者表彰があります。各自がやりがいを持って働けるよう、職場環境の整備・調整に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月所内研修を行う外、本社でのスキルアップ研修や外部研修も奨励されています。認知症介護基礎研修該当者の受講予定もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社スキルアップ研修、感染症委員会、身体拘束委員会、他事業所からの応援勤務等を通じて交流の機会があり、向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時等から本人様の意向を汲み取ってサービス計画に反映させ、安心して頂き信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや入居前の面談等にて家族様等の要望等を受容の姿勢でお聞きしています。サービス計画に反映させてより良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の要望に最適な支援を見極めた上、他のサービス利用のお勧めも含めて、適切にサービスを導入出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新聞折りや洗濯物量み等、お一人ずつに合った出来る事をして頂き、共に過ごし支え合う関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や毎月の手紙で健康状態・生活状況をお知らせしています。本人様からの面会や通話希望時、必要品ある時等家族様の協力を仰いでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会可能時は玄関ホールにて感染対策実施の上面会を行って頂いています。通話支援も行っています。	家族に向けて年賀状を出したり、利用者の様子をLINE動画で送ったり、家の近くをドライブした時に近所の人に挨拶したりするなど、馴染みの関係が途切れない様に支援している。また、コロナの状況に合わせて、馴染みの場所へ積極的にドライブに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を考慮した環境づくりをし、合同のレクリエーションや行事への参加を支援しています。時々トラブルもありますが、孤立せず支え合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に情報提供し、電話や訪問の際、ご様子の確認をしています。情報提供等は何時でも応じられる事等お伝えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃本人様のお話を傾聴し、思いや要望の把握に努めています。担当者が中心にモニタリング、アセスメントを行い、計画作成の際には本人様の意向を確認し、意向を活かした計画作成を行っています。	日常生活の中で利用者の思いや暮らしの希望等を担当職員が傾聴し、把握している。把握が難しい利用者に対しては、家族に生活歴を聞いたり、アセスメントを見返したり、入院先の病院に聞いたりして対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接でまず、本人様より情報を得ます。又、家族様、サービス関係者などから情報を得て生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を通して現状を把握するように努めています。毎日の申し送り等で、職員間の情報共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の利用者様の状況に応じて、職員間で問題を取り上げ、検討しています。又、ご家族、医師、看護師へも連絡、情報収集にあたりサービス計画を作成しています。	3ヶ月毎に担当職員がモニタリングを実施し、結果を計画作成担当者がチェックしている。また、プラン更新時や退院時など、変化があればその都度、見直ししている。プラン更新(半年に一回)前には、医師や看護師から意見聴取している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況を記録に記入しています。介護や治療変更などがあればノートに記入、出勤後すぐに確認するようにしています。又申し送りでも伝えて、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	水分補給・食事形態など、その方の状況に合わせて適切なケアを検討し、お一人ずつの能力に応じた自立支援を行えるよう、サービス提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で軒並み地域行事の中止がありましたが、利用者様にお尋ねし可能な限り参加できるように対応しています。毎月の移動図書館は楽しみにされ毎回ご自分で選ばれる方もおられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に提携病院を説明し、希望により病院を決めています。提携病院により毎月訪問診療があります。緊急時は、夜間・休日も相談援助が受けられます。歯科の訪問診療も行われています。	協力病院がかかりつけ医であり、24時間体制のもと、月一回主治医が訪問しており、緊急時の対応も万全である。専門医への受診対応は事業所で行っており、家族も大変喜んでいる。また、週一回訪問口腔ケアがあり、歯の磨き方など、アドバイスを貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師配置が来ています。出勤時には利用者様の状態を伝え、連携を図って支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携病院が有り、必要に応じて入院が出来ます。入院期間中は、相談員の方より連絡や報告があり、早期退院に向け、調整をしています。訪問時にも状況を伺っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、看取りに関する指針を説明しています。看取り介護には、身元引受人、主治医、施設立会人の同意書を交わし、看取りのプランを作成、それぞれと連携を図り支援を行います。	入居時、事業所の指針を説明している。重度化した場合は主治医が家族に説明し、同意書を交わしている。看護師が中心となり、全職員で方針等を共有し、協力病院と連携しながら、終末期支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、急変のマニュアルにそって研修しています。迅速な対応が出来るよう本人様の急変の予測と対応をプランに反映し、緊急連絡の体制を整えています。急変時の手順表を作成し活用しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年はコロナにより年2回ですが、例年は年3回避難訓練を行っています。地域推進会議の際に災害時の協力を頂けることを確認し合っています。	コロナ禍前は運営推進会議の後に避難訓練を実施していたが、現在は昼夜想定のもと、自主訓練に取り組んでおり、利用者も参加している。また、地震・津波の災害を想定した訓練も行っている。備蓄に関しては、3日分の食料を確保している。	地域の人の参加に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレドアは閉めて介助、訪室時はノックをしています。見守りが必要な方には家族様に了解を得て、ドアを開けての見守りをさせて頂いています。研修等で認知症介護の原則を斉唱し自尊心を傷つけない言葉かけの実践に努めております。	入浴時の着替えや対応など、プライバシーに配慮している。また、さん付呼称を徹底すると共に、原則、否定しない言葉かけに努めている。コロナ禍以前は、本社に外部講師を呼んで、接遇についての研修を行っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけをして意向を確かめてから、行動に移すように心がけております。自己決定できるように、声かけしています。受容の姿勢で傾聴に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の状況やペースに合わせて希望に沿うように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は洗面、整髪等を本人様のADLに応じて支援しています。入浴後の着替えは、できる方には、自分で選んでいただくようにしています。その日の気温により、服の調節をしています。フェイスクリーム等の購入支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはテーブルやお盆拭きコップ洗いをして頂いています。メニューには利用者様の好みや行事食を取り入れ、食事を楽しんで頂けるよう支援しています。	栄養バランスのとれた食事は職員手作りであり、利用者にも出来ること(皮むき、盆拭きなど)を手伝ってもらいながら、誕生日に手作りケーキでお祝いしたり、土用丑の日にうなぎの蒲焼を提供したりするなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。また、イベントメニューや季節の行事食もあり、利用者の食欲を掻き立てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事、水分の摂取量はチェック記録しています。嚥下困難の方にはとろみ剤など使用。状態に応じた食事形態にて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアでは、声掛けや、仕上げ磨き介助、ハミングッドの使用等、本人様の力に応じた支援をしています。歯科受診が必要な方へは歯科訪問診療を受けて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録チェック表を使用、排泄パターンの把握に努めています。失禁の少ない方には、布パンツを使用して頂き、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録を活用し、利用者の排泄パターンを把握している。日中はトイレ誘導、夜間はオシメやポータブルトイレなど、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時には、牛乳を提供するようにしています。頓服を使用する事もありますが、食事と水分の摂取量を適度に確保して頂けるよう努めています。又、体操も習慣的に行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の時間での対応は難しいですが、その方の体調や希望に合わせて曜日や順番を柔軟に調整し、入浴していただいています。	基本、週2回入浴しているが、希望すれば毎日入浴することも可能である。ゆず湯や入浴剤を活用し、入浴が楽しめるように工夫している。また、シャワー浴や足浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間により、その日の体調に合わせて休息していただいています。居室温度も随時調節しています。日中のリハビリ体操も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイルに収め情報共有できるようにしています。薬変更等、ノートに記入し申し送り、間違いのないようにしています。変更後の状態等を共有し往診時に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳む、新聞を折る等役割を持っています。手芸や読書、歌謡のDVD鑑賞等一人づつが楽しみを持てるように支援しています。また、文化祭への作品作りの支援も、利用者様の出来る事や好みを把握し行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があった時は、電話連絡をされ、家族様の協力を得て外出をされる事もあります。感染状況を考慮の上可能な限りは、お花見や、神社に初詣、ドライブも行い、天気の良い日には日光浴や散歩も支援しています。	感染状況を見ながら、初詣や菊花展など、月1回外出計画している。外出計画以外にも、事業所の菜園から野菜を収穫したり、玄関ポーチにある椅子で日光浴したり、庭の芝生の上で机を出して食事をしたり、園庭を散歩したりするなど、積極的に外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様よりお小遣いを預かっており、希望や必要に応じて代理購入を行っています。現金を一部自己管理される方もおられます。市内の青空市へ外出、買い物して頂くこともありました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話していただいています。手紙での通信を望まれる方にははがき購入や、投函の支援も行っています。年賀状は、毎年利用者様から、ご家族様に出して頂くように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕の笹と短冊など季節に因んだ飾りつけをしています。行事や誕生日会等の写真もホール等に飾り楽しんで頂けるようにしています。	共有ホールは天井が高く、採光窓があり、明るく開放的な雰囲気である。敷地内にある菜園で採れた花や利用者と職員で作成した壁画作品を飾ることで、季節感を醸している。また、各ユニットに加湿器2台、空気清浄機1台を設置し、快適で過ごしやすい環境作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを用意し、日光浴をしながら、ゆっくり過ごしていただけるようにしています。テーブル席は気の合う方と過ごせる様に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より、なじみの品の持参をお願いしています。ご家族の写真や仏壇など持参されておられます。安心して過ごしていただける様に心がけています。	馴染みの家族写真や仏壇、使い慣れた化粧台や化粧水、趣味の物などを持ち込んでおり、個々の居心地の良さに配慮している。また、家具などの配置や動線は、利用者の身体状況や転倒リスクを考慮して配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の区別がつかない方の為、自室前にはプレートを飾っています。トイレは分かり易い様に大きく表示しています。廊下等に手すりが多く設置されています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370500492		
法人名	特定非営利活動法人エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム 愛の郷 笠岡 (Bユニット)		
所在地	笠岡市生江浜585-1		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 24 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500492-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500492-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ブランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 4 年 12 月 22 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

1. 入所者が住み慣れた場所で安心して暮らせるように、医師との連携を図り、尊厳を大切にしながら介護を提供しています。利用者様の体調の変化に早く気づき、受診が出来る体制をとっています。2. グループホームの特長を生かして、個別対応を行い、その時の状態に合わせ、意欲を生かせるような対応を行っています。新聞折り、洗濯物量みなどの役割を担って頂く援助の外、法人主催の文化祭に向けた作品づくりの支援も行っています。3. 感染症予防対策に努め、毎日実践しています。4. コロナ禍においては毎月のボランティアの先生による生け花教室、音楽会は出来なくなりましたが、地域の感染拡大状況に応じて可能な限り再開し楽しんで頂いております。その他にも、季節行事に合わせた企画やメニューにて季節を感じて頂き楽しんで頂けるよう取り組んでいます。移動図書をご利用されている方もおられます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

優れている点として上げられるのは、次の2点である。まず、職員が持ち回りで手作りする食事は栄養バランスが良く、季節の行事に合わせて利用者の希望や要望を取り入れるなど、満足度の高い食事を提供しており、利用者にとって食事が楽しいものになっていること。二つ目に、「馴染みの場所を思い出して欲しい」「生活を楽しんでほしい」という思いから、感染予防対策を講じた上で、コロナの状況を見ながら、馴染みの場所(笠岡ベイファームや市民会館、井原の天神峡など)へ積極的に出かけていることがある。工夫点は、家族等に毎月送付している「介護及び看護の状況のお知らせ」について、利用者及び事業所内の様子や状況が各項目ごとに分かりやすく簡潔にまとまっている点が挙げられる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の理念を各ユニットに掲示し、共有しています。理念・原則に沿ったケアの実践に努めています。昨年10月に事業所理念についてブレインストーミングを行い更新しています。	各ユニットの事務所に理念を掲示し、職員に周知すると共に、朝礼時に復唱することもある。新入社員はオリエンテーションの中で周知している。職員の入替など、事業所内で変化が起きた時、理念を見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、総会や清掃活動等に参加しています。	コロナ禍で活動制限されているが、年2回、管理者が地域の清掃活動に参加し交流している。コロナ禍前は、夏のボランティアや職場体験の受け入れ、幼稚園児の慰問、子供神輿の来訪等があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や町内会等で施設見学や相談を受け付けている事をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催されています。民生委員様、利用者家族様の出席があり、様々に情報・意見交換がされて、サービス向上に役立てられています。本年5月、9月はコロナ禍の為開催中止となりました。	コロナの状況に合わせて開催しており、4月以降中止している。会議で出た意見は、ハザードマップの作成などに活かしている。また、災害時のアドバイスや気づきを貰ったりしている。	集まって開催することが難しい場合でも、書面会議での開催に期待します。また、集まって開催する際、家族への参加呼びかけに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域福祉課や長寿支援課、包括支援センターと連絡を取っており、協力関係を築いています。	地域福祉課へ生活保護の関係で出向いたり、連絡を取ったり、市担当者や包括支援センターに運営推進会議の議事録等を持参した際に話をしたりして、協力関係を築いている。コロナの影響で保健所との関わりも増えた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナでの面会禁止期間以外は日中玄関の施錠はしていません。委員会報告に基づく所内研修等にて、該当する具体的な行為について話し合い、認識を確かめています。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開いている。また、管理者が中心となり、年2回内部研修を行っており、その中で勉強会も行っている。マニュアルを整備し、職員一丸となって拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会報告に基づく所内研修や、入社時の研修などにより虐待防止について学び、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人からの資料等を通じて学ぶ機会があり、現在も笠岡市社会福祉協議会担当者様による成年後見人の支援が行われています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みや契約時等機会ある毎に説明し、理解を図っています。改定時には家族様宛に説明文の送付も行っていきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人からの家族様へのアンケート調査の他、来訪時等、随時意見・要望を伺っており、運営に反映できる体制となっています。	家族は法人のアンケート調査や面会時に、利用者は日々の生活の中から聞き取っている。聞き取った意見等は、買い物外出や体重管理等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティング等にて職員の意見・提案が検討され、業務に反映されています。	毎月のミーティングや日々の申し送り、定期カンファレンスの際に、職員から意見等を聞き取っている。また、気になる職員がいればその都度、話を聞いている。出た意見等は、行事内容の計画や利用者が日中活動する環境整備等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与と年度末決算賞与、毎月処遇改善助成金交付、永年勤続者表彰があります。各自がやりがいを持って働けるよう、職場環境の整備・調整に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月所内研修を行う外、本社でのスキルアップ研修や外部研修も奨励されています。認知症介護基礎研修該当者の受講予定もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社スキルアップ研修、感染症委員会、身体拘束委員会、他事業所からの応援勤務等を通じて交流の機会があり、向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時等から本人様の意向を汲み取ってサービス計画に反映させ、安心して頂き信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや入居前の面談等にて家族様等の要望等を受容の姿勢でお聞きしています。サービス計画に反映させてより良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の要望に最適な支援を見極めた上、他のサービス利用のお勧めも含めて、適切にサービスを導入出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新聞折りや洗濯物量み等、お一人ずつに合った出来る事をして頂き、共に過ごし支え合う関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や毎月の手紙で健康状態・生活状況をお知らせしています。本人様からの面会や通話希望時、必要品ある時等家族様の協力を仰いでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会可能時は玄関ホールにて感染対策実施の上面会を行って頂いています。通話支援も行っています。	家族に向けて年賀状を出したり、利用者の様子をLINE動画で送ったり、家の近くをドライブした時に近所の人に挨拶したりするなど、馴染みの関係が途切れない様に支援している。また、コロナの状況に合わせて、馴染みの場所へ積極的にドライブに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を考慮した環境づくりをし、合同のレクリエーションや行事への参加を支援しています。時々トラブルもありますが、孤立せず支え合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に情報提供し、電話や訪問の際、ご様子の確認をしています。情報提供等は何時でも応じられる事等お伝えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃本人様の話を傾聴し、思いや要望の把握に努めています。担当者が中心にモニタリング、アセスメントを行い、計画作成の際には本人様の意向を確認し、意向を活かした計画作成を行っています。	日常生活の中で利用者の思いや暮らしの希望等を担当職員が傾聴し、把握している。把握が難しい利用者に対しては、家族に生活歴を聞いたり、アセスメントを見返したり、入院先の病院に聞いたりして対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接でまず、本人様より情報を得ます。又、家族様、サービス関係者などから情報を得て生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を通して現状を把握するように努めています。毎日の申し送り等で、職員間の情報共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の利用者様の状況に応じて、職員間で問題を取り上げ、検討しています。又、ご家族、医師、看護師へも連絡、情報収集にあたりサービス計画を作成しています。	3ヶ月毎に担当職員がモニタリングを実施し、結果を計画作成担当者がチェックしている。また、プラン更新時や退院時など、変化があればその都度、見直ししている。プラン更新(半年に一回)前には、医師や看護師から意見聴取している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況を記録に記入しています。介護や治療変更などがあればノートに記入、出勤後すぐに確認するようにしています。又申し送りでも伝えて、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	水分補給・食事形態など、その方の状況に合わせ適切なケアを検討し、お一人ずつの能力に応じた自立支援を行えるよう、サービス提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で軒並み地域行事の中止がありましたが、利用者様にお尋ねし可能な限り参加できるように対応しています。毎月の移動図書館は楽しみにされ毎回ご自分で選ばれる方もおられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に提携病院を説明し、希望により病院を決めています。提携病院により毎月訪問診療があります。緊急時は、夜間・休日にも相談援助が受けられます。歯科の訪問診療も行われています。	協力病院がかかりつけ医であり、24時間体制のもと、月一回主治医が訪問しており、緊急時の対応も万全である。専門医への受診対応は事業所で行っており、家族も大変喜んでいる。また、週一回訪問口腔ケアがあり、歯の磨き方など、アドバイスを貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師配置が来ています。出勤時には利用者様の状態を伝え、連携を図って支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携病院が有り、必要に応じて入院が出来ます。入院期間中は、相談員の方より連絡や報告があり、早期退院に向け、調整をしています。訪問時にも状況を伺っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、看取りに関する指針を説明しています。看取り介護には、身元引受人、主治医、施設立会人の同意書を交わし、看取りのプランを作成、それぞれと連携を図り支援を行います。	入居時、事業所の指針を説明している。重度化した場合は主治医が家族に説明し、同意書を交わしている。看護師が中心となり、全職員で方針等を共有し、協力病院と連携しながら、終末期支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、急変のマニュアルにそって研修しています。迅速な対応が出来るよう本人様の急変の予測と対応をプランに反映し、緊急連絡の体制を整えています。急変時の手順表を作成し活用しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年はコロナにより年2回ですが、例年は年3回避難訓練を行っています。地域推進会議の際に災害時の協力を頂けることを確認し合っています。	コロナ禍前は運営推進会議の後に避難訓練を実施していたが、現在は昼夜想定のもと、自主訓練に取り組んでおり、利用者も参加している。また、地震・津波の災害を想定した訓練も行っている。備蓄に関しては、3日分の食料を確保している。	地域の人の参加に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレドアは閉めて介助、訪室時はノックをしています。見守りが必要な方には家族様に了解を得て、ドアを開けての見守りをさせて頂いています。研修等で認知症介護の原則を斉唱し自尊心を傷つけない言葉かけの実践に努めております。	入浴時の着替えや対応など、プライバシーに配慮している。また、さん付呼称を徹底すると共に、原則、否定しない言葉かけに努めている。コロナ禍以前は、本社に外部講師を呼んで、接遇についての研修を行っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけをして意向を確かめてから、行動に移すように心がけております。自己決定できるように、声かけしています。受容の姿勢で傾聴に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の状況やペースに合わせて希望に沿うように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は洗面、整髪等を本人様のADLに応じて支援しています。入浴後の着替えは、できる方には、自分で選んでいただくようにしています。その日の気温により、服の調節をしています。フェイスクリーム等の購入支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはテーブルやお盆拭きコップ洗いをして頂いています。メニューには利用者様の好みや行事食を採り入れ、食事を楽しんで頂けるよう支援しています。	栄養バランスのとれた食事は職員手作りであり、利用者に来ること(皮むき、盆拭きなど)を手伝ってもらいながら、誕生日に手作りケーキでお祝いしたり、土用丑の日にうなぎの蒲焼を提供したりするなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。また、イベントメニューや季節の行事食もあり、利用者の食欲を掻き立てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事、水分の摂取量はチェック記録しています。嚥下困難の方にはとろみ剤など使用。状態に応じた食事形態にて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアでは、声掛けや、仕上げ磨き介助、ハミングッドの使用等、本人様の力に応じた支援をしています。歯科受診が必要な方へは歯科訪問診療を受けて頂いています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録チェック表を使用、排泄パターンの把握に努めています。失禁の少ない方には、布パンツを使用して頂き、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録を活用し、利用者の排泄パターンを把握している。日中はトイレ誘導、夜間はオシメやポータブルトイレなど、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時には、牛乳を提供するようにしています。頓服を使用する事もありますが、食事と水分の摂取量を適度に確保して頂けるよう努めています。又、体操も習慣的に行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の時間での対応は難しいですが、その方の体調や希望に合わせて曜日や順番を柔軟に調整し、入浴していただいています。	基本、週2回入浴しているが、希望すれば毎日入浴することも可能である。ゆず湯や入浴剤を活用し、入浴が楽しめるように工夫している。また、シャワー浴や足浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間により、その日の体調に合わせて休息していただいています。居室温度も随時調節しています。日中のリハビリ体操も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイルに収め情報共有できるようにしています。薬変更等、ノートに記入し申し送り、間違いのないようにしています。変更後の状態等を共有し往診時に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳む、新聞を折る等役割を持っています。手芸や読書、歌謡のDVD鑑賞等お一人づつが楽しみを持てるように支援しています。また、文化祭への作品作りの支援も、利用者様の出来る事や好みを把握し行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望が有った時は、電話連絡をされ、家族様の協力を得て外出をされる事もあります。感染状況を考慮の上可能な限りは、お花見や、神社に初詣、ドライブも行い、天気の良い日には日光浴や散歩も支援しています。	感染状況を見ながら、初詣や菊花展など、月1回外出計画している。外出計画以外にも、事業所の菜園から野菜を収穫したり、玄関ポーチにある椅子で日光浴したり、庭の芝生の上で机を出して食事をしたり、園庭を散歩したりするなど、積極的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様よりお小遣いを預かっており、希望や必要に応じて代理購入を行っています。現金を一部自己管理される方もおられます。市内の青空市へ外出、買い物して頂くこともありました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話していただいています。手紙での通信を望まれる方にははがき購入や、投函の支援も行っています。年賀状は、毎年利用者様から、ご家族様に出して頂くように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕の笹と短冊など季節に因んだ飾りつけをしています。行事や誕生日会等の写真もホール等に飾り楽しんで頂けるようにしています。	共有ホールは天井が高く、採光窓があり、明るく開放的な雰囲気である。敷地内にある菜園で採れた花や利用者と職員で作成した壁画作品を飾ることで、季節感を醸している。また、各ユニットに加湿器2台、空気清浄機1台を設置し、快適で過ごしやすい環境作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを用意し、日光浴をしながら、ゆっくり過ごしていただけるようにしています。テーブル席は気の合う方と過ごせる様に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より、なじみの品の持参をお願いしています。ご家族の写真や仏壇など持参されておられます。安心して過ごしていただける様に心がけています。	馴染みの家族写真や仏壇、使い慣れた化粧台や化粧水、趣味の物などを持ち込んでおり、個々の居心地の良さに配慮している。また、家具などの配置や動線は、利用者の身体状況や転倒リスクを考慮して配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の区別がつかない方の為、自室前にはプレートを飾っています。トイレは分かり易い様に大きく表示しています。廊下等に手すりが多く設置されています。		